

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

みんなが支えています

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **横田 光生**

苦しさの裏側には

「ヤッター、あった、受かったよ本当に本当に俺の番号だよ」と平成23年3月15日、社会福祉士の合格発表日にインターネットの合格者一覧に掲載されている自分の受験番号を見つけ、目を潤ませながらガッツポーズを何度もしたことを、つい先日のことの様に思い出します。

受験勉強やレポートは私が想像していた以上に「苦しい」ものでした。その分合格という目標を達成できた時には嬉しさが何百倍にもなって跳ね返って来たのだと今は思っています。解らなかった問題を理解できた時、これでもか、これでもかとレポートを提出しご評価をいただいた時などは嬉しいものですね。学ぶことの「楽しさ」を実感でき充実感でいっぱいになりますよね。「産みの苦しみ」という諺がピッタリと当てはまると私は思います。

イメージ・あきらめない気持

私は受験の際、「絶対に合格する」「これだけ勉強したのだから受かる」と自分に言い聞かせ、そして受かった時のイメージを持って勉強と試験に臨みました。レポートも「自分が全身全霊で作らあげたレポートだ、これ以上の作品は無い」ぐらいの気迫を持って取り組んだ記憶があります。今振り返ると、なんと謙虚さのない学生だったのかと恥ずかしくなります。ただ皆様にお伝えしたいことは目標を達成できるというイメージを「持つ」と「持たない」のでは結果に少しの差がつくということです。それ

は私が滑り込みでも社会福祉士という国家資格を手に入れることができた要因の1つだったと思っています。

また、「あきらめの悪さ」にも要因があったと思います。実は私ほど勉強やレポートから逃げ出した回数が多い学生は居なかったでしょう。「駄目だ、各種アプローチの技法はあるけれど、どれも同じにしか思えない理解不能だ。今日はビール飲んで寝よ」Etc. こんな具合でしたが途中で辞めてしまうことなく、少々長いこと通信教育学部には籍を置かせていただきましたが、卒業と合格を賜ることが出来ました。

レポートとの格闘

仕事を抱えながらのレポート作成は本当に大変でした。まず与えられた課題を確認する。テキスト・参考図書を読み、知識を頭に叩き込みレポートに立ち向かう。ただしこれだけでは不十分なので自分なりの視点や論理を知識にぶつけてみる。この時点では何とか漠然としながらレポートのイメージは出てくるのですが、その先が一番苦労しました。漠然としたものを順序だてて形にする作業です。入学初年度などは6単位を取得するのがやっとだったと記憶しています。また、「さあ、今日こそは」と意気込んでいると子供が発熱で病院に連れて行かねばならないなど、色々なことがあったなあと思い出します。

私のレポート作成の手順は以下の通りです。

- ①自分の視点や論理、客観的なデータや事実・事件、文献などから引用できると思ったものを抽出し、箇条書きでメモをする。
- ②箇条書きの中から接点を見つけて繋ぎ合わせ、箇条書きのグループを作ります。
- ③そのグループを強引にでも繋ぎ合わせ全体像を作ります。
- ④全体像を精査し、余計な部分は削り・不足している部分には肉付けを

行います。

こんな具合に作成をしました。ちょうどジグソーパズルを作成するようなイメージを持っていただければ解りやすいと思います。ただし不要なピース（箇条書き）も沢山あるジグソーパズルでした。

実習体験

実習は勤務先で行いました。公休を実習期間に充て4カ月をかけて実習を行いました。休みらしい休みがなくヘトヘトになったことを覚えています。しかしルーチンワークでは行わない業務や職種を経験することでソーシャルワークに対する視点が広がったことを覚えています。

振り返って残念だったのは実習を通してソーシャルワークのどんな点を学びたいか、より具体的にしておけば良かったことです。皆様にはぜひ実習前の課題設定に力を注ぎ、実りある実習になることをお祈り申し上げます。

私の受験勉強方法

受験勉強には単語帳を活用し、基本的な用語を覚えました。常に携帯し1～2分あれば繰り返し目を通す。私は人名が不得意だったのでその部分から手をつけました。そして机に向かえる時はワークブック・過去問題を活用し応用力をつけて行きました。

One for All All for One

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」ラグビーをしていた方なら知っている有名な言葉です。通信教育課程においてもこの言葉は当

てはまると思います。恩師の言葉に「ラグビーは人生の縮図である」とおっしゃっていたのを通学生として福祉大を卒業し15年ほどたった今でも覚えています。

通信教育では、時に孤独を感じる事が少なからずあると思います。でも決して1人ではありません、必ず誰かが皆様の健闘を支えているはずで。私の場合は子どもにも支えてもらいました。たまの休みに父と遊びたい子どもが「勉強終わったら遊んでね。」と我慢してくれたのが励みになりました。

また、先日仙台市にある当施設に山口県からホルンの演奏に来て下さったボランティアさんがいました。その美しい音色もさることながら「山口のみんなは東北のみなさんを ぶち応援しちよります」と書かれた色紙と、その方の教え子達が作ったサンタの人形をいただきました。サービス利用者さん職員一同、支えようとしてくれる気持ちが嬉しく、心強く、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

『With』を読んでいる皆様にとって少しでも私の体験がお役に立つのであれば喜んで支えたいと思います。そして皆様が思う存分戦うことを心よりお祈り申し上げます。One for All All for One.

学生アンケートから

スクーリング時に「レポートのまとめ方」「学習時間の確保」について、学生の方にアンケートをとらせていただきました。そこから、参考になりそうなメッセージを抜粋しました。

レポートのまとめ方の手順

- 1) とにかく、どんどん情報を収集して、「ここ大切」と感じたところをワープロ打ちする。
この段階には、時間を多くかけて、広く調べる。
- 2) 書き出しているうちに、頭に何となく全体構想（構成）がうかんでくる。
- 3) 似たような部分をまとめたり、贅肉部分を捨てる。
- 4) 「起承転結」構成なら、「起」と「結」には、しっかりとオリジナリティー（自分の考え）を出す。
- 5) 制限字数内におさまるように、語尾、接続詞、言い回しを工夫する。

少ない時間でもいから こつこつやるのが大切だと気付いた4年目の夏です…（笑）

私は、朝少し早く起きて30分～1時間、勉強するようにしています。これを3月からはじめましたが、今までの中で一番ハイペースで単位が取れて、自分でも驚きました。

年間のスケジュールをたてる。参加するスクーリングとのかねあいを見ながら、何月何日までレポートを出し、その科目についてのスクーリングに参加しない場合は、何月の科目修了試験に参加するのか、細かく年間スケジュールを立てる。レポート作成は、短時間だとなかなか進みづらいように感じる。教科書等を読むことは、短時間でも積み重ねが有効だと思うが、レポートを書くという時には、ある程度まとまった時間を作った方がよいと思う。